

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400047		
法人名	特定非営利活動法人リスペクト		
事業所名	認知症高齢者グループホーム碧水		
所在地	雨竜郡北竜町字碧水15番地の2		
自己評価作成日	平成25年11月27日	評価結果市町村受理日	平成25年12月25日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=0197400047-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、運営の透明性を図ることから、運営推進会議において業務の内容や人事についての悩みなど報告をさせていただいており、各委員の皆様からアドバイスを頂きながら事業運営を行っているところです。グループホームは地域密着との関係性が強く、地域に認められるように積極的に地域の行事並びに自治会の会議などにも参加しております。また、地域の高齢化に伴い、お葬式のお手伝いも頼まれるようになってきております。そして、ホームの近くの住民の家に、冬期間除雪をボランティアでさせていただいておりますが、住民の方々から助かると大変喜ばれております。これからは積極的に地域に向けてお手伝いができるように取り組んでいきたいと思っております。ご利用者様やご家族様のお気持ちを出来るだけ取り入れながら、皆様に喜ばれるホーム作りを目指して生きたと思っています。そして、ご利用者様が安心してホームでの生活が続けられるように職員と、ご家族と一緒に考え、ご利用者様の尊厳が守られるよう協力しながら支援していきたいと考えております

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成25年12月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<就業環境の整備>
 職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、休暇の取得ややりがい、札幌や旭川での外部研修への派遣や内部研修会の年間予定を組んで実践するなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努め、継続したケアサービスを提供できるように取り組んでいる。
<事業所の力を活かした地域貢献>
 キャラバンメイトの研修を受けて、認知症の人への理解や支援の方法を農協婦人部の約20名の人達に向けて講演会を実施するなど、事業所の持つ力を活かして地域に還元している。また、行政とも緊密に連携をとりながら協力関係を築くように取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は2～3年毎に見直しをして、現状に合った理念を職員全員で作り上げるように心がけて、実践している	事業所独自の理念をつくりあげ、定期的に見直しをしながら職員間で共有し、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方々や利用者がお話できる環境と近所の方々より、野菜をもらったり、外では世間話をするなどの環境が自然とできていることから、日常的にも交流は行っている	町内の人々や子供たちが参加してジギスカンパーティを開催したり、認知症の人への理解や支援の方法を農協婦人部の約20名の人達に向けて講演会を実施するなど、地域の人達との交流促進に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの研修を昨年受け、今年の12月中旬には、北竜町農協婦人部の方たちに集まってもらい、認知症の種類や、特長などの講演を行う予定になっております		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、ホームの現状を隠すこともなく、ありのままの現状を報告しております。行事関係、事故の報告、ホームとして困っていることなど、推進員さんからの助言も頂いており、運営面において心強く感じており、よい関係を築いております	運営推進会議は、年6回を目安に開催し、日常生活の様子や利用状況、事故防止の取り組みなど具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から密に連絡をとるなど心がけてもおり、色々な場面での指導や、不安な事など、何でも話せる関係を築く事が出来ていることから、心強く感じており、良い関係がこれからも続けていける事と思っております	日常的に町担当者と情報を交換しながら相談や助言等を得て、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、絶対行わないという考えから、利用者さんには自由に行動をしてもらっております。外行く時は職員と一緒に同行したり、夜間眠れなくて起きてきた場合も、職員が淋しくないよう話し相手になって安心感を与える等のケアにも取り組んでおり、利用者様が安心して生活が出来る環境作りに努めております	内部研修会や日常業務を通じて、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修には毎年職員が参加できるように努めていることから、少しずつ職員も学習ができてきており、職員同士、その行為が虐待にならないように注意を払うなど、よい関係が出来てきている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解は出来ているが、ホームと言う事で、以前、成年後見制度を利用したの申し込みがありました。契約までには至らず入居にはなりません。また、社会福祉協議会との契約でサービスを使う事は理解はしておりますが、住民との相談もなく、サービス支援には至っておりません		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切丁寧に運営方針に掲げており、利用者やご家族とのトラブルにならないように説明しております。また、トラブルになりやすい金銭面等での説明には、時間をかけながら納得できるように説明をして理解を頂いております		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、推進委員より、貴重なご意見や要望を頂いており、いつもこれらを参考にしながら、運営に反映できるよう取り入れております。また、ご家族様からの提案などにも耳を傾け、改善できる事は改善しながら運営しております	普段から家族とのコミュニケーションを大切にしながら、意見や要望等話し合う機会を設けている。また、家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように、市町村等の相談窓口の掲示や意見箱を設置し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての職員の意見が聞ける時間を設けており、職員の要望や意見を聞きながら、改善できる事は改善していくという姿勢で、運営を行っております	札幌や旭川での外部研修への派遣や内部研修会の年間予定を組んで実践するなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努め、継続したケアサービスを提供できるように取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の成果が給与に反映できるよう人事評価を行う予定をしております。今年4月より行う予定でしたが、職員の入院が長引いたこともあり、今年度については行わず、来年4月から人事考課を実践していく予定		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、札幌や旭川など積極的に職員を勤務扱いで研修に出しております。出張後の復命書も提出して、後日、職員会議の場で報告することになっております。また、内部研修は職員各自で年間予定を立て、各領域ごとのテキスト問題を解くというやり方を毎年継続して行っております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との研修会終了後の交流会等にも参加しており、横の連携を大切にしながら、少しずつではありますが情報を取りながらサービス向上に繋がるよう取り組んでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安などコミュニケーションを取りながらスタッフ全員でセンター方式を用い、日々の生活が安心して送れる様アセスメントを行いながら利用者との関係づくりに努めております		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前に家族の心配していることなど家庭訪問も取り入れながら、聞き取り調査も行っており、今後の方針等のアドバイスを行っています。また、家族の身になって考える姿勢で普段からも面会時等でも必要があれば、相談させていただきます		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族やご本人の悩みは意外と多くあり、利用者ご家族の関係がうまくいっているかどうかを見極めながら、心配事などに耳を傾け、その家族の抱えている課題などに適切なアドバイスが行えるように支援しております。また、ご本人の悩みなどもその時には言えなくても後で聞くように努めております		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族の一員として捉えており、自分の親だったらどうするかを常日頃から心がけております。また、利用者同士も同じ家族といった気持があり、入院した時は皆さんが心配するといった場面が見られております		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援するのは本来の務めですが、ご家族の意見もきちんと聞き、勝手にホーム側での主導権によりサービスを展開するのではなく、例えば緊急に入院する場合、ご家族に連絡を取り、何処の病院が良いかを聞くなど出来る限りの配慮をしております		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問支援や散歩、盆踊りなどの町内会行事等の参加を通じて、馴染みの人や場所との関係が途切れないように取り組んでいる	盆踊りなどの町内会行事参加や町内の人々や子供たちとのジンギスカンパーティを通じて、馴染みの人や場所との関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が家族のようにいたわりながら生活している状況がみられております。一人ひとりの役割も構築されており、掃除担当や食事の後片付けを手伝ってくれるといったお互いに助け合う気持ちがみられております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期となり、退去することになって、いつも家族の一員として考えており、入院先の医療相談員や、担当医師ともよく相談しながら、次の入居先なども見極めながら、ご家族に心配かけないようにご本人やご家族に支援をしており、大変喜ばれております。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用やモニタリングを通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいます	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握にセンター方式を活用して、本人本位に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の生活歴や昔からなじんでいた生活を御家族様に書いていただき、介護計画の参考にしております		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3ヶ月に1回のアセスメントを行い、その人の心身の状況や何が出来て、何が出来なくなってきたのかの把握に努めながら、毎日漠然と過ごすのではなく、1日を学園生活におきかえ、勉強するといった生活も取り入れながら取り組んでおります		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすための課題とケアの在り方について、センター方式を活用してご本人、ご家族の意見や思いを反映するようにしている。また、モニタリングを通じて現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用して本人、家族の意見や思いを反映し、モニタリングで職員の意見やアイデアを話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録やバイタルチェック表を用いて、排泄の状況や血圧の状況、体温の状況など日頃から観察できるように、その日の記録だけではなく1週間前の状況などにも目を通して適切なケアができるように努めています		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に即したその時のニーズを把握しながら、柔軟な支援が出来るように取り組んでいます		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑や花壇を作りながら、野菜を収穫したり、お花を觀賞したりして、それぞれが楽しめる環境作りを実践しております。また、夏期には盆踊り、冬期にはクリスマスパーティーなど、地域の行事等にも参加しており、季節に応じ楽しんでいただいております		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、協力医療機関や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の勤務は週1回午前中のみ勤務となっておりますが、皮膚疾患の処置やバイタルチェックを行っていただき、利用者の異常を職員が発見した時などには適切にアドバイスを頂いております。また、夜間など相談したい時にはいつでも電話ができる体制になっていることから介護職員にとって安心のできる心強い存在となっております		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はいつもスムーズに市立病院側で対応してくれており、病状の説明や、入院期間などの説明もあり、また、退院時は必ず前もって電話連絡があり、受け入れの準備もやすく、利用者のお見舞いに1週間に1回程度病院へ出向き、看護婦さんに状況を聞いてきております		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	人命救助の方法について全ての職員が熟知しているかと言うとまだまだといった感じですが、救急救命の方法の一部として、AEDの使用法や人工呼吸法の研修など、毎年1回は出れる職員で研修を受けてきております		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等の緊急時に協力等が得やすいように火災避難訓練に参加を呼びかけ、協力体制構築に取り組んでいる。また、夜間を想定した避難訓練を実施している	夜間を想定した避難訓練の実施や火災等の緊急時に、地元の人々の協力が得やすいように火災避難訓練に参加を呼びかけ協力体制構築に取り組んでいる。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないよう職員間で周知している	外部研修参加や内部研修会実施で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないよう職員間で周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望やその思いをセンター方式を通して情報を職員間で出し合いながら自己決定していけるように取り組んでいる		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切に、職員の都合で何でもしてしまふ事のないように留意しながらサービスに取り組んでいます。今日はどうのように過ごしたいかは本人が決めるように日課は固定しておりません。その人らしく生活できるように支援しております		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには普段から注意しており、化粧することは女性にとって生きがいとなっており、可能な限りお化粧を楽しんでもらっています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、一人ひとりの好みや力を活かしながら職員と利用者が食事の準備や後片付け等と一緒にしております	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と利用者が食事の準備や後片付け等一緒にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在レトルト食品を朝食と昼食に使用しており、味の方も利用者様から美味しいという評判を頂いておりますが、栄養の面でも管理ができており、良い傾向と思われま。夕食は、手作りとなり、利用者様の食べたい物を中心に作る等の工夫をしています		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや口臭が生じないよう、毎食後一人ひとりの口腔状態の観察や、本人の力でも口腔ケアができるように声掛けする等支援をおこなっております		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を個別に捉えるため、排泄チェック表を使い、できるだけ家族の経済的負担を軽減できるよう、時間を見計らいおむつに頼らないトイレでの排泄ができるように努めております。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や、及ぼす影響を理解して、できるだけ運動ができるように声掛けしたり、歩行介助等行いながら、個々に応じた便秘予防に取り組んでおります。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に応じて、毎日午前入浴や午後からの入浴も可能として行っております。職員の都合で曜日や時間を決めてしまうことは行わず、個々の希望に沿った支援を心がけて行っています	午前・午後入浴が可能になっており、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が、いつでも休息したり、オールソファで昼寝ができる環境作りを心がけており、利用者様は自分のお部屋で休むのではなく、ホールのソファで好きなように過ごされ安心して気持ちで雑談したり、眠られているようです		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の副作用や、用法・用量について理解できるように努めながら、服薬の管理支援と一般状態の変化にも留意する等努めております		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課は特に決めておりませんが、おおむね生き生き学園というプログラムを設け、その日の気分にもよりますが、勉強したい時はいつでもできる体制を取り入れながら、思い思いに自分達で考え行動し、楽しい娯楽が出来るように取り組んでおります		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場の外出の散歩はなかなかできませんが、春から秋にかけては、本人の希望があれば、職員と一緒に散歩に出かけたり、四季に応じた屋外ドライブや、町内や近隣地域の催し物などへ出向き、見学して楽しめるように支援を行っております。	地域の盆踊りやお花見参加、四季を通じたドライブや散歩、野外でのジンギスカンパーティで町内の人々や子供たちとの交流など戸外に出かけられるように支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理している方は少人数ですが、管理ができる方については、なるべく大金は持たせないようにご家族にもお話を理解を得ているところです。近くのコンビニやスーパーなどにも職員と一緒に出かけ、買い物する楽しみを味わってもらっております		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から頼まれた場合は、電話の取り次ぎは行っておりますが、手紙を書くという習慣の方はおらず、手紙についての支援は現在まで行う機会がありませんでした。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間においては、趣味を凝らし、硬いイメージがないように配慮しております。日中の照明は夜間を除き、一日中付けており、転倒予防にも役立っていると考えております。冬期間の温度管理は勿論のこと、湿度管理では室内が乾燥していることもあり中々湿度が上がらず苦労しております	生活感や季節感を採り入れて、一人になったり、談笑ができるように椅子やソファが配置されて、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、本人にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で利用者様同士が会話できるよう目配りを行いながら、いつでも利用者様同士が話す事が出来る環境作りに取り組んでおります。職員がお茶を出したり、コーヒーと一緒に飲んだりコミュニケーションが取りやすいような雰囲気作りも努めております		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、可能な限り自分の家で使っていた物を持ってきていただき、自分の家と同じような環境を御家族様に作ってもらい、生活できるように支援しております	居室からは、周囲の景観が眺められたり、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう、その人に応じた役割が日常生活の中で自然とできるように自分の部屋の掃除や洗濯たみ等お願いしたりして支援を行っています。何でもしてあげるのではなく、何が出来て、何が出来なくなっているかを見極めながら支援を行っております		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	全ての職員が緊急時にすばやく対応ができる。	救急救命訓練で人命救助の方法を全ての職員が熟知する。	AED使用方法や人口呼吸法訓練で全ての職員が緊急時に対応できるようにする。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。